



映画とアコと音楽と ⑤

「ホーリー・モーターズ」第5ランデブー(幕間)

1960年生まれのフランスの映画監督レオス・カラックスはとびきりの天才で1983年に後にアレックス3部作の第1作と位置付けられる処女作「ボーイ・ミーツ・ガール」が熱狂的に支持され、次作「汚れた血」は作品のみならず大女優ジュリエット・ビノシュの評価を決定的にした。そして1991年の大作「ポンヌフの恋人」が決定的な傑作で超大作だったが、制作は大変な難産。パートナーであったビノシュとの破局と映画会社の倒産を招き、カラックス自身も次作を制作するのに8年の時を俟つことになる。その後、寡作さが一層極端になり現時点での最新作「ホーリー・モーターズ」は13年ぶり5作目の2012年作品。まるで彗星のようにファンは待ちくたびれるが輝きは格別だ。

そんな「ホーリー・モーターズ」に関して語るべきことは数多いが、もうYouTubeで構わないので、アコーディオン・シーンを検索して一度見ていただきたいと思う。映画全体の脈絡を無視して10数人の男たちがアコーディオンを奏でながら聖堂の中を練り歩く圧倒的な3分余り。曲はR・L・バーンライドの「レット・マイ・ベイビー・ライド」のカヴァー。1927年生まれのミシシッピのブルーズマン(2005年逝去)の曲で21世紀に入ってからリヴァイバルのスマッシュ・ヒットとなり世界的な知名度を得たことが取り上げられた所以と思われる。サウンドトラックCDと映画のクレジット

トによると演奏者は Doctor L というフランスのパンク・ミュージシャン(ドラム担当)他。2003年にパートナーであったマリー・トランティニャン(ジャン＝ルイ・トランティニャンの娘で女優)の殴打致死で収監されたベルトラン・カンタ(伝説のロック・グループ「ノワール・デジュール」のリーダー、歌手、作詞作曲担当、スポークスマンだった中心人物、近年のカムバックに対するフランスでの反応は複雑)の出演も確認されている。おそらくハーモニカを吹いているが、そうした芸能的エピソードさえも、映像のパワーの前では些事に過ぎない。冒頭に登場するのは映画の主演のドゥニ・ラヴァン。監督のカラックスの分身といわれ、初期三部作でアレックスとして主演したほか、「ポーラX」以外全てで主演しているドゥニ・ラヴァンは大道芸人の役で本当に火を吹いてみせたりする体を張った役作りをする俳優なので(そのドゥニの仕事ぶりが反映された映画が「ホーリー・モーターズ」だったりする)本当にアコーディオンを弾いているのに違いない。

いやこれ格好いいですよ。なんだかアコーディオン担いで歩き回りたくありません。

◀前原 克彦▶

「ホーリー・モーターズ」で検索すると、アコーディオンを弾きながら歩き回る映画の場面を見ることができます。

♪「音楽センター東部アコーディオン教室発表会」ぶらり訪問記♪

2018年10月28日(日)13:30 開演 水元公園共同ビル5F(東京都葛飾区)

当日は、1時間ほど早めに出かけて、都内最大の水郷公園と言われている水元公園を散策してみました。天候も良く家族連れで大変にぎわっていました。そんなことをして会場に入ったときには全員合奏のオープニング曲「すみれの花咲く頃」が始まっていました。

独奏の1番手は習い始めて半年と紹介された若い女性の方で、演奏曲は「夕焼け小焼け」です。初めに一人で弾き、繰り返すには講師の鶴見先生が合いの手を入れての演奏です。レガートで綺麗な演奏でした。

2番手は10年ぶりに再開したという男性で、懐かしくてよく弾いていたという「ダニーボーイ」を演奏。

3番手は、この歌は大好きで講師の木下先生に編曲していただいたと、重音や合いの手のような“おかず”が入った「叱られて」をゆったりと演奏されました。きれいな編曲なので弾き込むといいですね。

続いては「愛の賛歌」、そして、「パリの屋根の下」(編曲:伴典哉)では10数年前奥様とヨーロッパを旅したときモンマルトンの丘にあったホテルの窓からパリの下町の屋根の向こうにエッフェル塔を見た、そんな遠い思い出をいただきながら演奏されますと司会のコメントでした。次はちよつと息抜きでしょうか、皆で歌える「北国の春」を伴奏者4名と腕を痛めアコーディオンで参加できなかったキャップが自慢のうたで加わり、1番と3番を歌いました。

続いての「ラ・スパニョラ」は三拍子の優雅な感じがよく出ていました。

次の「さくら」(日本古謡)は「木下先生がアン

サンプル用に編曲されたものを独奏用にアレンジしていただきました。今日は自由に弾きたい」とのコメントで、バリエーションがあつたり、テンポを変えたりと想いのこもった演奏でした。

独奏の最後はアコーディオンを始めたころからあこがれの曲だったという「ヴォルプタ」です。三拍子の頭の音がしっかりした演奏で練習の成果が良く出ていたと思いました。みなさん弾き終わったあとのほっとした顔が印象的です。

みんなで歌いましょうでは、「紅葉」、「故郷」など、「赤とんぼ」では歌詞は1番の幼少期から順に成長していく様子を歌っていて、4番の“とまっているよ竿の先”というのは独り立ちする姿を歌っているとの解説がありました。また、歌うコーナーの中で木下先生作曲の「声あげてゆこう」(越生9条の会有志:詞)の紹介があり、メロディーも易しいのでみんでうたって覚ええました。

講師演奏の中では木下先生の伴奏で山田千賀子さんが「君の今をつくりたい」を歌うプレゼントがあり、独奏では「枯葉」を演奏されました。もう1人の講師鶴見先生は「カレルフィンスカヤ・ポルカ」を演奏されました。

最後に全員合奏で2曲、1つ目の曲「懐かしい店の前で」は、かつて、演奏団体がないと作品は生まれないとアンサンブルをやる団体「ニュー・アンサンブル・アコルデ」をつくり活動していたときに林光さんに日本で初めてアコーディオンアンサンブルの作品を書いてもらった3曲の中の1曲です、との紹介がありました。2曲目は天空の城ラピュタのテ

ーマ曲「君をのせて」です。

アンコールでも「君をのせて」を再演して幕となりました。(写真)(記:乙津)

